

あいさつ

平田 直（防災科学技術研究所 首都圏レジリエンスプロジェクト総括 /
 首都圏レジリエンス研究推進センター センター長）

デ活シンポジウムの主催者を代表して、防災科学技術研究所の平田からごあいさつさせていただきます。本日はお忙しいところ、オンラインでご参加いただき、ありがとうございます。本日のテーマは「今、改めて首都直下地震と向き合う」ということで、昨今はそれほど大きな被害をもたらす地震はありませんが、改めて首都直下地震のことを話題にしていきたいと思えます。

1.時空の拡大：遠隔開催

私たちがこうしてオンラインでシンポジウムを開催するのは、対面で集会を開くことができないので仕方がなくという面もありますが、昨年の暮れから始まった新型コロナウイルス感染症の流行の中で、私たちはこれまでにないリスクの顕在化を身に染みて感じています。ワクチンや特效薬が開発されれば、この感染症をわれわれは一応克服することはできると思えますが、その後も私たちの世界は決して感染拡大前の状況には戻らないと思えます。私たちは既にこうして遠隔で皆さんと議論する手法を獲得しました。かっこよく言えば、時空を拡大した遠隔のコミュニケーションという手法を学んだわけです。少し言い方は悪いですが、これは災害時にも応用できる貴重な練習の機会でもあると考えています。また、本プロジェクトでは、皆さんと共通の価値を創造していく CSV (Creating Shared Value) を最初から標語として掲げてきましたが、本日のシンポジウムでは、具体的にどうすれば共通価値を共有することができるかということが示されると思えます。

昨年度はシンポジウムを4回、対面で行いました。最後の1回は成果報告会も兼ね、対面で行う予定で大きな会場を用意しましたが、出演者だけが会場に集まり、デ活会員の方々にはオンラインで視聴していただきました。さらに、後日動画を公開し、オンデマンドで300名弱の方に視聴していただきました。今年度の第1回は完全オンラインで開催し、リアルタイムには380名に参加していただきました。さらに、これをYouTubeで残すことで、1000人以上の方に見ていただくことができました。時空を越えてというのはそういう意味です。本日も既にZoom Webinarでは250名、YouTubeでは120名が参加しており、時空を越えた参加が実現しています。

2.新しい価値の創造

私たちは今まで、良いことをすることは善行であるという認識がありましたが、防災上いろいろな情報を共有することは、経済的な利益や社会の恩恵といった、もう少し実利的な面で私たちの役に立つことがあります。そのような考え方で、私たちは CSV をぜひ進めていきたいと思っています。

私たちは、産官民が連携して防災上必要な社会のニーズ（必要性）を示し、それを学（アカデミア）の研究シーズ（種）と融合させることによって、新しい価値を創造したいと考えています。私たちにとっての新しい価値とは、災害に対する社会のレジリエンス力を向上することであり、その実現のために研究を進めています。本日は、具体的にどうすれば産業界の力を防災に役立てられるかということを議論したいと考えています。本日はどうぞよろしく申し上げます。

（司会：下村） 平田統括、ありがとうございました。共通の価値という話を聞いて思い出したことがあります。前回のシンポジウムの中で、みんなが自分たちの防災を何とかしたいと思って利己的に行動するけれども、それらのデータを集めてみんなで共有すれば、結局それは利他にもなる、利己と利他は上手にやれば相反するものではない、利己を全て足して共有すれば利他になるという話がありました。私はこの話がとても印象に残っていて、本日はそこの理解をさらに深めていきたいと思っています。

地震対策から始まり、去年は気象災害が頻発したので気象災害を取り上げ、前回は感染症対策を取り上げましたが、今日こそはデータ利活用の課題を真正面から考えたいと思います。どうすればみんなが利己と利他の溝を乗り越え、お互いにデータを出し合えるようになるのかということについて、株式会社小堀鐸二研究所代表取締役社長で京都大学名誉教授の中島先生より基調講演を頂きます。